

## 2020 年度 小委員会活動成果報告

(2021 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	建築・都市熱環境に関する将来構想小委員会		主査名：細淵 勇人 就任年月：2019 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (熱環境運営委員会)		委員長名：持田 灯 主査名：永田 明寛
設置期間	2019 年 4 月 ～ 2021 年 3 月		
設置目的 各年度活動計画 (箇条書き)	・数値シミュレーション等による将来の建築・都市熱環境予測手法の検討、協議		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無し		
	主査：細淵勇人(愛知工業大学), 幹事：高瀬幸造(東京理科大学) 委員：有波裕貴(新潟大学), 一ノ瀬雅之(首都大学東京), 川久保俊(法政大学), 菊田弘輝(北海道大学), 菊本英紀(東京大学), 窪田真樹(有明工業高等専門学校), 曾我和弘(鹿児島大学), 徳村朋子(竹中工務店), 中野淳太(東海大学), 中山哲士(岡山理科大学), 長谷川兼一(秋田県立大学), 水出喜太郎(日建設計), 森太郎(北海道大学)		
設置 WG (WG 名:目的)			
2020 年度予算	170,000 円	ホームページ公開の有無：無し 委員会 HP アドレス：	

項目	自己評価
委員会開催数	3 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	<del>1. (名称) 参加者数 名</del> <del>(資料名)</del>
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 専門の異なる委員間で研究議論を行うとともに、本小委員会の成果発表に関しても、次年度の熱シンポジウムでの発表方針や次年度大会 OS 企画などについても協議することができた。
委員会活動の問題点 ・課題	1. コロナウィルスの影響で、協議の場をすべてオンラインとしたが、これまでの委員会開催方法と異なるため、手探り状態であった。しかしながら、通常開催と比べても遜色ない意見交換ができたように考える。

## 2020 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・**最終年度評価**)

総合評価 (4 段階評価)	A	B	C	D
<p style="text-align: center;">総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>2020 年度活動については、委員の各専門のテーマをスケールごとに分類し、毎回の小委員会でそのテーマに関するトピック等について広く議論を行ってゆき、専門外の委員との意見交換を行い、各テーマで将来的に「これができたら社会が変わる、もっと良くなる」ということを主眼に議論した。</p> <p>コロナウィルス禍の影響で、委員会はすべてオンラインでの開催となったが、通常開催と比べ出席者も多く、上記議論を行い、活発な意見交換を行うことができた。</p> <p>委員会成果を、今年度熱シンポジウムにて発表する予定であったが、残念ながらシンポジウムがコロナウィルス禍の影響で延期となったため、次年度シンポジウムで成果報告を行うこととし、その方針について協議を行った。</p> <p>上記熱シンポジウムに加え、小委員会内にとどまらず過去、現在の建築・都市熱環境を踏まえた将来のより良い環境創造に求められる熱環境技術について議論する場として、2021 年度大会に「建築・都市熱環境に関する将来構想」と題する OS を企画した。</p>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。